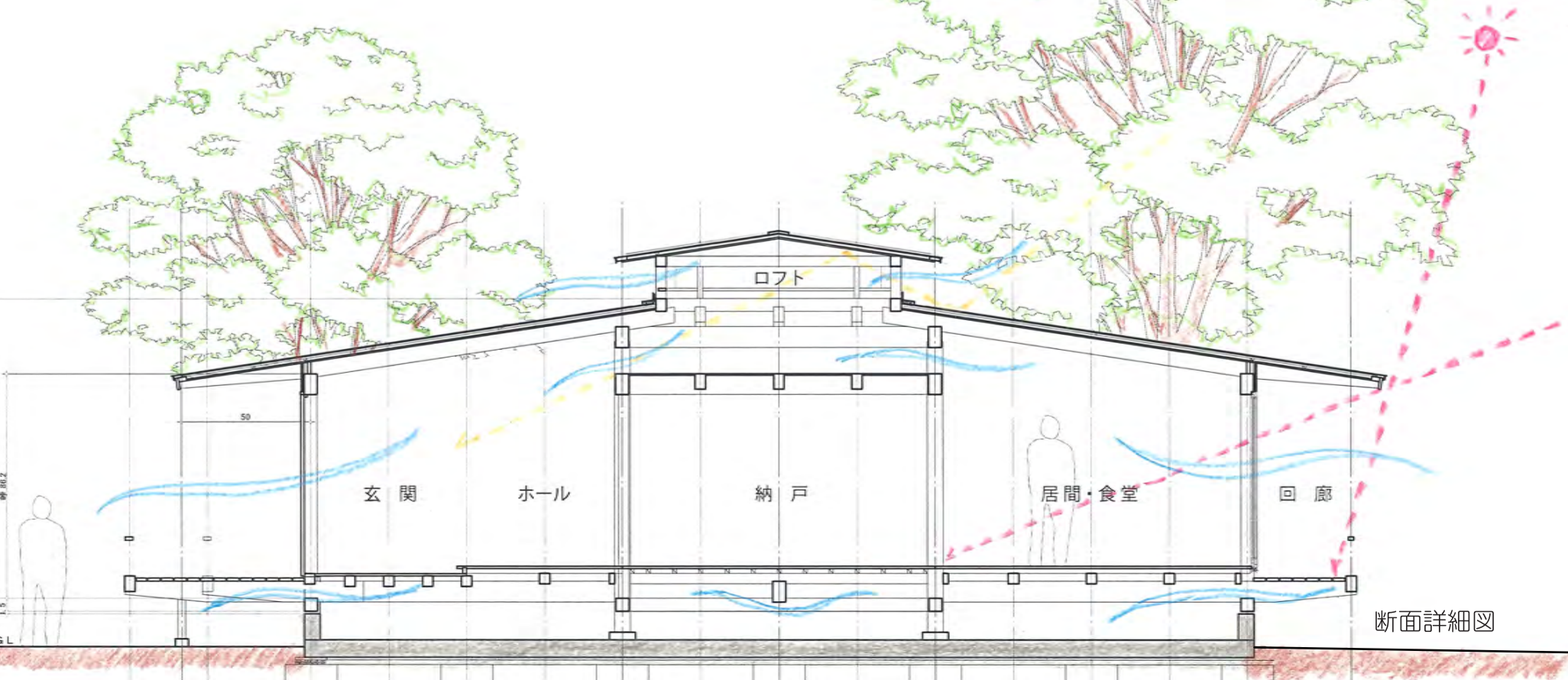


森の舟屋 - 自然に逆らわない『素』の住まい -



周辺市街地の雑踏が嘘のように緑が多く残る敷地が印象的でした。ガーデニングや家庭菜園が好きな建主さんには、景色を壊さず、庭と建物が一体となった佇まいが適していると、訪れた瞬間に感じました。建物は緩い屋根勾配の平屋です。建物の周囲には庭との距離を縮める浮回廊が廻っています。この領域はくつろぐ場所だけではなく、時には道具置場や、物干し場になったりします。外部を大切にすると建主さんにとって大切な場所になっています。環境負荷を住宅にも求める昨今ではありますが、最も大切なことは、住まい手が愛着を持って住まいを大事にすることだと思います。結果として愛される住まいはどんなに粗末な建物でも長く大切に使用されるのですから。その為につくり手である我々は、自然に逆らわず、建主さんの希望に耳を傾け、時には教育的な立場で素直な家づくりを提案していく必要があります。技術論に走る前に地球を大切にする家づくりの根本がここにあるように思います。



太い柱と梁に囲まれた開放的なリビング。材の再利用を意識して構造体には金物を使用していない。固定化した二酸化炭素を大気に放出させない為にも、木材を長く使うことが大切である。



家の中心部に設けた腰屋根。通気スリットを通して各部屋から空気が流れてくる。ハイサイドライトからは柔らかな光が室内に届けられる。構造のコアであり、性能維持の心臓部でもある。



1.5m 出た軒が板の外壁と浮き回廊を守っている。木材は製造、廃棄過程でのエネルギー消費も少ない優秀な材料であるが、とにかく水に弱い。水との縁を切ることが長寿命にもつながる。



周囲の緑にすっぽりと覆われるような佇まい。屋根には落ち葉や木の実が落ちてくる為、雨樋は取り付けず、雨水はそのまま地面に浸透する。外壁には建主さんが塗装した杉板を張った。